

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿) 2022年度 Moto Class・Kart Class修了記念走行・修了式ご報告

拝啓 寒冷の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、「鈴鹿サーキットレーシングスクール (SRS)」から名称を変更し、今年度より新たにスタートした「ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿 (HRS鈴鹿)」ではHRS鈴鹿Moto Class・Kart Classの2022年度修了記念走行および修了式を12月18日 (日) に行いました。この修了記念走行と修了式をもって2022年度の全カリキュラムが無事終了いたしました。これもひとえにご協賛・ご協力いただきました各社の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、ここに開催のご報告をさせていただきます。

2023年度もHRS鈴鹿では、世界に通用するライダー・ドライバーの育成を目標に活動を続けてまいります。引き続き、ご理解・ご協力賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬具

2022年12月18日

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿事務局

●2022ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿) Moto Class・Kart Class修了記念走行・修了式 開催概要

■日時： 2022年12月18日 (日)

■概要： 修了記念走行……………南コース (1.264km)

修了式……………レーシングコース ビットビル2F ホスピタリティラウンジ

■参加：

<HRS鈴鹿Moto Class (ベーシック/アドバンス)>

Principal/岡田忠之

Director/田村圭二

Instructor/野田弘樹・上田昇・宮崎祥司・亀谷長純・高橋裕紀・山本剛大・岡崎静夏

太田雄・中野真矢・岡田秀之

<HRS鈴鹿Kart Class (ベーシック/アドバンス)>

Vice Principal/中野信治

Director/服部弘光・長島哲也

Instructor/大津弘樹・笹原右京・佐藤蓮

Physical Coach/鎌田貴

※以上敬称略

HRS鈴鹿Moto Classベーシック受講生/12名・アドバンス受講生/4名

HRS鈴鹿Kart Classベーシック受講生/11名・アドバンス受講生/3名

HRS鈴鹿Formula Classスカラシップ獲得者/1名



[50音順]

難しい路面状況に応じたタイヤチョイスやマシンコントロールの訓練から修了記念走行まで、充実した最終カリキュラム

3月28日(月)に行ったHRS鈴鹿Moto Class・Kart Class合同による入校式。その日から約9ヶ月を数え、12月17日(土)・18日(日)の2日間に渡る走行トレーニングが2022年度の最終カリキュラムとなりました。

初日の17日(土)は、今季一番の寒気が到来する中、断続的に雨がパラパラと降り、路面コンディションがドライからハーフウェットに移り変わる寒い一日に。Moto Classでは最終日の修了記念走行に向けてマシンセッティングに専念するもよし、ハーフウェット路面を攻略すべく走行を続けるもよしと、受講生の自主性を尊重し、フリー走行を中心に走行トレーニングを行いました。

また、Kart Classでは、気温が低くて路面温度が上がらず、しかもハーフウェットという難しい路面状況ながら、敢えて終始ドライタイヤで走行トレーニングを続けることで、極限状態でのマシンコントロールを学びました。

最終日の12月18日(日)もまずは全体ミーティングを実施。このミーティングの中でMoto Class田村圭二Directorが「どんなタイヤをチョイスするのか。計時予選のどのタイミングでタイムアタックを開始するのか。全て自分で考え、全て自分で決めてください。自主性を発揮し、実際に行動に移すことが大切です。最終日の今日はそれらをいつも以上に意識して走ってください」とコメント。Kart Class中野信治Vice Principalも「一年間ずっと皆さんのことを見てきました。今日はここまで学んできたことの全てを出し切って締めくくってください。一年間の評価については修了式でコメントしたいと思います」という激励の言葉を掛けました。

路面コンディションを確認しながらコースをランニングしたり縄跳びを行って身体をウォームアップした後、いよいよ最後の走行トレーニングへ。この日はKart Classの走行から始まりました。10分間のフリー走行の後、7分間のタイムトライアルを行い、そこでのベストタイム順にグリッドに並んで10ラップによる予選ヒートを行いました。この予選ヒートではポールポジションスタートの佐藤蓮Instructorと2番グリッドスタートの加藤大翔が横並び状態で1コーナーへ。トップでオープニングラップを帰ってきた佐藤Instructorを加藤と大津弘樹Instructorがパス。その3台が激しくトップの座を争った末、加藤、佐藤Instructor、大津Instructorのオーダーでチェッカーを受けました。



HRS鈴鹿Kart Class修了記念走行スタート



Moto Classでは一時的にトップを走行、Kart Classでは予選・決勝ともにトップチェッカー、積極的に走行した受講生たち

続いて予選ヒートのチェッカー順にグリッドに並び、決勝ヒートを行いました。「鈴鹿選手権シリーズ カートレースIN SUZUKA」の決勝レース距離を想定し、16ラップに設定したこの修了記念走行では2番グリッドスタートの佐藤Instructorがホールショットをゲット。佐藤Instructor、ポールポジションスタートの加藤、4番グリッドスタートの百瀬翔、3番グリッドスタートの天津Instructorの4台がトップグループを形成して周回を重ねる中、果敢な走りを披露して加藤が佐藤Instructorをパスすると、その後もその2台は抜きつ抜かれつのバトルを展開。加藤、佐藤Instructor、天津Instructor、百瀬、箕浦稜己、中井陽斗のオーダーでチェッカーを受けました。

Moto Classの最後の走行トレーニングは10分間のフリー走行からはじまりました。この走行で路面コンディションを確認した後、15分間の計時予選を実施。そのベストタイム順にグリッドに並び、修了記念走行を行いました。

2輪レースの決勝レースを想定し、20ラップに設定したこの修了記念走行では3番グリッドスタートの竹本倫太郎が良いクラッチミートを披露すると、ポールポジションスタートの山本剛大Instructor、2022年シーズンはMoto3クラスを戦った古里太陽Support Instructor、竹本のオーダーで1コーナーへ。オープニングラップで古里Support Instructorと山本Instructorを立て続けにパスした竹

本がトップ集団を率いて走行。しかし、その竹本を山本Instructor、野田弘樹Instructor、古里Support Instructorがパスし、竹本は4番手に。山本Instructorが転倒した後は野田Instructor、古里Support Instructor、竹本が激しくトップ争いを展開しましたが、古里Support Instructor、野田Instructor、竹本、中谷健心、遠藤翔類、奥貫翔のオーダーでチェッカーを受けました。

Kart Classのタイムトライアルでは佐藤Instructorと受講生の加藤のみが51秒台をマーク。加藤は予選ヒートをトップで終えて決勝ヒートのポールポジションを獲得すると、決勝ヒートでもトップでチェッカーを受けました。

また、Moto Classでは受講生の竹本が一時的にトップに。竹本は古里Support Instructorや山本Instructor、野田Instructorとテールtoノーズのバトルを展開するなど、Kart、Moto Classともに受講生たちの積極的な走りが印象的な修了記念走行となりました。

白熱した走行後には本番さながらの表彰式も実施。Moto Class岡田忠之PrincipalとKart Class中野Vice Principalからそれぞれの学校の上位3名に記念メダルが授与されました。



HRS鈴鹿Moto Class修了記念走行スタート





(Moto Class)一時的ながらトップを走行する受講生 (#8)



(Moto Class) 本番さながらの表彰式でメダルが授与された受講生たち(左から中谷健心、竹本倫太郎、遠藤翔類)



[50音順]



(Kart Class) Instructorらと先頭集団でバトルを展開し、トップチェッカーを受けた受講生 (#1)



(Kart Class) 本番さながらの表彰式でメダルが授与された受講生たち (左から百瀬翔、加藤大翔、箕浦稜己)



[50音順]



走行後、各スクール全員で写真に収まる (写真上: Moto Class、下: Kart Class)



[50音順]



最終日カリキュラム前の緊張感が漂う恒例ミーティング(写真上:Moto Class、下:Kart Class)



[50音順]



PrincipalやInstructorに直接アドバイスを乞う積極性も試される(写真上:Moto Class, 下:Kart Class)





走行前後のメンテナンスは受講生たちの重要なルーティンワーク(写真上:Moto Class, 下:Kart Class)



入校時より精悍さを増した受講生30名が 決意を新たにしたHRS鈴鹿Moto Class・Kart Class修了式

その後はレーシングコース ピットビル2階のホスピタリティラウンジへと会場を移し、HRS鈴鹿Moto Class・Kart Classの合同による修了式を行いました。この修了式には主役であるMoto Classベーシック(12名)・アドバンス(4名)、Kart Classベーシック(11名)・アドバンス(3名)の受講生たち合計30名が参加しました。

まず、ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキットモータースポーツ部レーシングスクールセンター所長の荒川基之より挨拶。その後、株式会社ホンダ・レーシング(HRC)取締役 企画管理部 部長の長井昌也様よりご挨拶をいただき、さらにMoto Class岡田Principal、Kart Class中野Vice Principalよりコメントをいただきました。そして、岡田Principal、中野Vice Principaからそれぞれのスクールの受講生たちに修了証が授与されました。受講生たちは大きな返事とともに立ち上がり、3月の入校時から成長した姿で修了証を受け取り、各Principalとがっちり握手をしました。

また、去る11月30日(水)に行ったHRS鈴鹿Formula Classスカラシップ最終選考会で2022年度スカラシップ獲得者選ばれた森山冬星を紹介しました。これをもって9ヶ月間・延べ26日間におよんだHRS鈴鹿Moto Class・Kart Classの2022年度の全カリキュラムが無事終了いたしました。

長い歴史の中、HRS鈴鹿は国内外で活躍するトップライダー・トップドライバーを多く輩出してきました。HRS鈴鹿出身のドライバーでは角田裕毅選手(2016年度修了)のF1参戦、古里太陽選手(2019年度修了/スカラシップ獲得)がMoto3参戦をはじめ、直近のスカラシップ獲得生も国内外でスクールのその先へと挑み続けています。そして、彼らに続くライダー・ドライバーが現れることが期待されています。それを後押しするHRS鈴鹿の活動、そしてHRS鈴鹿の卒業生たちの活躍に今後ご注目願います。



岡田忠之Principalから直接一人ひとりに修了証書が授与される(写真:Moto Class)



[50音順]

●Principal・Vice Principalのコメント●

◇HRS鈴鹿Moto Class
岡田忠之Principal

『最後のカリキュラム初日は難しいコンディションでしたが、今日の修了記念走行は白熱したとても良い展開になりました。皆さん、よく頑張ったと思います。Moto Classの修了生としては、2022年スラッシュ獲得者である江澤伸哉が今シーズンのイデミツ・アジア・タレント・カップ初戦カートのレース1で優勝を飾るなど、良いレースを披露しました。HRSの名を背負ってよく頑張りました。彼らのように世界で活躍するためには、やるべきことがまだまだたくさんあると思います。速さだけでなく、人として認められるように人柄を磨くこと、応援してもらえるように魅力を身に付けること。そういったことを今後も頑張ってください。そして世界に名を轟かせるようなライダーに成長して行って欲しいと思います』

◇HRS鈴鹿Kart Class
中野信治Vice Principal

修了記念走行で全てを出し切った!と言える人は何人ぐらいいるでしょうか。常にベストを出すことは世界を目指す上で欠かせないことです。皆さんが目指しているところは世界の頂点です。ピラミッドの頂点は狭い場所です。たくさんの人は乗ることができません。そこに立つためになにをしなければいけないのか。今一度考えてください。サーキットで走ってる姿というのは実は氷山の一角で、水面下に隠れているいろいろなことが皆さんを支えています。そこが皆さんが上に行けるかどうかを決めるのです。ステップアップしていく上では、たくさんの方たちの応援、協力、助けを得る必要があります。周りの方々が応援したいと思えるような人にならなければ世界には行けないのです。速さだけでなく、挨拶やマナーなど、ここで学んだことを活かし、成長して行ってください』



Kart Classは中野信治Vice Principalが修了証書を授与(写真:Kart Class)





HRS鈴鹿Moto Class修了式集合写真(ベーシック:上、アドバンス:下)



[50音順]



HRS鈴鹿Kart Class修了式集合写真(ベーシック:上、アドバンス:下)



[50音順]